

### 3-1-6 インドにおける地方行政官を対象にしたワークショップ

アジア防災センター（ADRC）では、国連アジア太平洋経済社会委員会（UN/ESCAP）による津波リージョナルトラスト基金を活用して、2007年12月20日～21日の2日間、インドのチェンナイにおいて、国家防災管理局（NDMA）と共済のもと、防災を担当する地方行政官を対象としたワークショップ「コミュニティーベースのハザードマップ開発におけるトレーナー育成プログラム」を開催し、中央政府、地方行政官さらには大学、研究機関、NGOから60名を超える防災担当官等が参加しました。本ワークショップの目的は、コミュニティーの防災力を高めるための手法であるタウンウォッチングを用い、コミュニティーベースのハザードマップ作成手法を地方行政官が学ぶことを通じて、トレーナーとして養成することです。

研修生は2日間のワークショップを通じて、インド東海岸の抱える自然災害リスクに対する理解を深めると共に、タウンウォッチングを用いたハザードマップの作成の有効性を理解し、さらにはマップ作成を通じた参加者のリスクコミュニケーション（リスクに関する個々人のギャップを埋める手法）についても学ぶことができました。

## 3-2 海外招聘研究員に係る人材育成と情報ネットワーク化

### 3-2-1 2007年度海外招聘研究員活動報告

アジア防災センターは、第1回専門家会議等におけるメンバー国との合意に基づき、メンバー国から研究員の受入れを実施しています。現在までに合計36名を受入れており、メンバー国の人材育成と防災情報の収集に努めています。

2007年度には、下記の4名の研究員を本プログラムにより受け入れました。

#### (1) ミャンマー

- スエ・ジン・エイ研究員
- 派遣時の役職：ミャンマー救  
援・再定住省 教育・研究課  
課長
- 期間：2007年7月～12月
- ミャンマーの自然災害は日本  
とほぼ同じであるが、特に都  
市火災による被害が多いこと  
が特筆されるとの報告を行っ



図 3-2-1-1 研修成果発表風景

た。

JICA セミナーコース、各種シンポジウムへの参加及び各種防災機関を訪問し、日本の総合的な防災対策について学び、ミャンマーの防災力向上のための施策展開に関する様々な知識を得ることが出来た。

## (2) キルギス共和国

- カリバイ・カナトベック 研究員
- 派遣時の役職：キルギス共和国  
非常事態省 外交・投資チーフ  
スペシャリスト
- 期間：2007年7月～12月
- キルギスでは、世界の75種類の  
自然災害のうち地震、洪水、  
雪崩などの20種類の災害が発  
生しているとの報告を行った。



図 3-2-1-2 研修成果発表風景

JICA 中央アジア・コーカサス

防災行政コース、各種シンポジウムへの参加及び各種防災機関を訪問し、日本の総合的な防災対策について学び、キルギスの防災力向上のための施策展開に関する様々な知識を得ることが出来た。

## (3) 中国

- ジャン・ユンシャー 研究員
- 派遣時の役職：中国国立防災センター  
研究員
- 期間：2008年1月～5月
- ADRC では、日本及びアジア各国の  
災害マネジメントシステムについて  
の研究を行った。



図 3-2-1-3 立川広域防災基地見学

日本の防災対策についての総合的な

理解のため、ADRC が JICA と協力して実施する JICA 防災行政管理者セミナーに

同行した。

#### (4) パキスタン

- ザファール・タジ研究員
- 派遣時の役職：パキスタン政府北部方面行政局 ギルギット市副コミッショナー
- 期間：2008年2月～6月
- ADRCでは、日本の建築基準法と実施体制及び災害防止・事後災害防止についての研究を行った。



図 3-2-1-4 タウンウォッチング風景

日本の防災対策についての総合的な理解のため、ADRCがJICAと協力して実施するトルコ「自治体防災能力強化」研修に同行した。

2004年1月に開催された第6回アジア防災センター国際会議では、これまでのメンバー国研究員のネットワーク化が提案され、さらなる防災情報の共有の推進によって、今後も各国の防災力強化に貢献していくことが期待されています。

ネットワークのメンバー研究員は以下の通りです。

表 3-2-1 ADRC 外国人研究員リスト

	氏名（敬称略）	国名	外国人研究員受入れ時期
1	シム・キー・オウ	韓国	1999/07/23 - 1999/10/11
2	ゴ・バン・シン	ベトナム	1999/12/10 - 2000/03/17
3	レクナス・ポカレル	ネパール	2000/01/12 - 2000/05/07
4	ニマル・ヘティアラチ	スリランカ	2000/04/13 - 2000/10/12
5	バブル・アクター	バングラデシュ	2000/05/12 - 2000/11/16
6	チュラナンダ・ペレラ	スリランカ	2000/11/13 - 2001/04/05
7	リップシマ・バルダニヤン	アルメニア	2001/03/09 - 2001/06/04
8	フィロメナ・ミリア	パプアニューギニア	2001/06/04 - 2001/12/03

9	ソー・バン・ヒーシ	カンボジア	2001/06/04 - 2001/12/04
10	モハメッド・アティクザマン	バングラデシュ	2002/01/09 - 2002/06/30
11	ティグラン・サイヤン	アルメニア	2002/02/23 - 2002/08/22
12	クン・ソーカ	カンボジア	2002/07/29 - 2002/12/25
13	V. P. パスリジャ	インド	2002/10/05 - 2002/12/25
14	ディリ・シワコティ	ネパール	2003/01/08 - 2003/07/02
15	ボロルマー・ボルクー	モンゴル	2003/01/08 - 2003/07/05
16	ヴィライポン・シソムバン	ラオス	2003/07/08 - 2003/12/25
17	ソバルナ・ラックマン	インドネシア	2003/07/09 - 2003/09/30
18	オーム・ブラカッシュ	インド	2003/10/08 - 2003/12/24
19	ラフモノフ・スフロブショ	タジキスタン	2004/01/14 - 2004/06/10
20	グエン・タン・フーン	ベトナム	2004/01/27 - 2004/06/29
21	ユアン・イー	中国	2004/07/19 - 2004/10/15
22	ボアシー・タマサック	ラオス	2004/07/21 - 2004/12/24
23	シャム・スンダー	インド	2005/10/02 - 2005/12/25
24	ロス・ソーバン	カンボジア	2005/01/23 - 2006/06/30
25	バル・バハドゥール・マラ	ネパール	2005/01/30 - 2006/06/29
26	マリア・ゴ	フィリピン	2005/07/13 - 2005/12/27
27	ディオロロ・ミロヴァ	タジキスタン	2005/07/15 - 2005/12/21
28	リュドミラ・ハルトユニアン	アルメニア	2006/01/11 - 2006/04/10
29	ジャナカ・グナワルダナ	スリランカ	2006/03/01 - 2006/06/30
30	サンヒョク・カン	韓国	2006/07/18 - 2006/12/17
31	シャーザン・アルタンチメグ	モンゴル	2007/01/09 - 2007/06/30
32	アルン・ピンタ	タイ	2007/01/14 - 2007/06/30
33	ヌエ・ジン・エイ	ミャンマー	2007/07/04 - 2007/12/25
34	カリバイ・カナトベック	キルギス	2007/07/06 - 2007/12/26
35	ジャン・ユンシャー	中国	2008/01/10 - 2008/05/28
36	ザファール・タジ	パキスタン	2008/02/23 - 2008/06/24

## 3-2-2 過去の海外招聘研究員のネットワーク化の推進

### 3-2-2-1 背景

アジア防災センター(ADRC)は、第1回専門家会議等におけるメンバー国との合意に基づき、メンバー国から研究員の受入れを実施しています。現在までに合計36名を受入れており、メンバー国の人材育成と防災情報の収集に努めています。

外国人研究員(Visiting Researchers = VR)は、ADRCでの6か月の研修中に防災に関する日本の先進的知識・技術及び日本の国際協力などについて学びます。

海外招聘研究員は、メンバー国における災害リスク軽減(以下、DRR)の向上に留まらず、メンバー国とADRC間の協力の促進にも貢献することが期待されています。研修終了後、それぞれの国のDRRの発展と改善に貢献してきました。

これまでの外国人研究員が日本のDRRに関する十分な知識を持ち、また各国のDRRについての経験を持つことから、ADRCが過去の外国人研究員を通じて、メンバー国のDRR策定活動計画を支援するものです。

### 3-2-2-2 目標

目標は以下のとおりです。

- (1) メンバー国の最新データ、予算、計画、災害データベースおよびDRRに関連する法律、条例、規則を総合して、兵庫行動枠組みに基づいてADRC加盟国のDRRの能力を評価する。
- (2) 評価をもとに、DRRについて、どのような点を改善または強化すべきかを指摘する。
- (3) メンバー国の活動計画を作成するための十分な背景と動機を持つメンバー国を選定する。
- (4) これまでの外国人研究員のネットワーク化を進め、彼らの助言をもとに外国人研究員招聘プログラムを改善する。

### 3-2-2-3 活動

#### < 1年目 >

- (1) ADRCは、帰国したVRを通じて、メンバー国の組織、予算、計画、防災データベースおよびDRRに関連する法律、条例、規則に関する総合調査を行う。(3カ月)
- (2) 調査結果をもとに、ADRCとこれまでのVRは協力して、DRRに関してどのような点を改善、強化する必要があるかを指摘する。(3カ月)
- (3) ADRCは、メンバー国がDRR活動計画を作成する動機と能力を評価する。(2カ月)

### < 2年目 >

- (1) ADRC と 1 年目に選定した国の帰国 VR は、共同で国の DRR 活動計画に対する原案を提示する。(5 カ月)
- (2) ADRC は、神戸で国の DRR 活動計画案を評価する会議を開催し、是正のための助言と提言を得る。(1 カ月)
- (3) 助言と提言をもとに、ADRC と帰国 VR は原案を修正する。(3 カ月)  
国の政府は、議会に対して国の DRR 活動計画の採択を求める。

#### 3-2-2-4 過去の海外招聘研究員

研修を終了した過去の海外招聘研究員は、2008 年 3 月末時点で 34 名になります。

その内容を表 3-2-2-4-1 と 3-2-3-4-2 に示します。

アジアの地域ごとの過去の海外招聘研究員数は表 3-2-2-4-3 に示す通りです。

過去の海外招聘研究員の研修活動の概要を表 3-2-2-5 で示します。

表 3-2-2-4-1 国別過去の VR 数

韓国	2
ベトナム	2
ネパール	3
スリランカ	3
バングラデシュ	2
アルメニア	3
パプアニューギニア	1
カンボジア	3
インド	3
モンゴル	2
パキスタン	1
ラオス	2
インドネシア	1
中国	1
タジキスタン	2
フィリピン	1
タイ	1
キルギス	1
ミャンマー	1

19 カ国、VR 34 名

表 3-2-2-4-2 VR ゼロの国

ウズベキスタン
カザフスタン
ブータン
シンガポール
マレーシア
ロシア連邦
イエメン

7 カ国

表 3-2-2-4-3 アジアの地域別の国の数

\* 着色の国：過去に VR あり その他：過去に VR なし

東アジア	韓国
	中国
	モンゴル
	ロシア連邦
東南アジア	ベトナム
	カンボジア
	インドネシア
	ラオス
	フィリピン
	タイ
	パプアニューギニア
	シンガポール
	マレーシア
	ミャンマー
	南アジア
バングラデシュ	
インド	
ネパール	
パキスタン	
ブータン	
中央アジア	アルメニア
	タジキスタン
	ウズベキスタン
	カザフスタン
	キルギス
中東	イエメン

## 3-2-2-5 過去の海外招聘研究員の研修活動の概要

## (1) 韓国

- 氏名：Shim Kee-Oh
- 派遣時の職位：プロジェクトマネージャ、国立防災研究所（干ばつ対策）、政府行政自治省
- 期間：1999年、8-10月
- 日本の干ばつ対策を調査し、韓国での干ばつ対策について報告した。さらに、ベトナムとパプアニューギニアにおける最近の干ばつ被害について調査、報告した。

## (2) ベトナム

- 氏名：Mr. Ngo Van Sinh
- 派遣時職位：水害対策専門官、防災センター、洪水暴風防災委員会、防災部、洪水暴風防災、ベトナム農業地方開発省
- 期間：1999年12月-2000年3月
- ベトナムにおける防災ならびに洪水にかかわる法体系について報告、日本での洪水防災を研究し、関連施設を見学した。京都大学の寶教授、戸田助教授の下で水害関連領域の研究を行った。

**(3) ネパール**

- 氏名：Mr. Lek Nath Pokharel
- 派遣時職位：課職員、災害救助課、自治省
- 期間：2000年1-5月
- ネパールにおける防災ならびに自然災害に関連する法体系について報告、日本における地滑り対策を研究し、関連施設を見学した。京都大学、防災研究所中川助教授の下で研究した。
- 洪水対策と懸念されているヒマラヤの Tsho Rolpa 氷河湖の崩壊について報告し、名古屋大学、大気水圏科学研究所の上田教授（雪氷圏変動）の下で研究した。

**(4) スリランカ**

- 氏名：Mr. Nimal Dharmasiri Hettiarachchi
- 派遣時職位：災害救援副長官、社会サービス部、自治省
- 期間：2000年4-10月
- スリランカにおける議会での防災法案と自然災害について報告した。名古屋大学の UN 地域開発センター研究員と ADRC との間で持続的開発とその防災との関連について意見を交換した。

**(5) バングラデシュ**

- 氏名：Mr. M. Babul Akhter
- 派遣時職位：課長、Palli Karma Shayaku 基金、財務部
- 期間：2000年5-11月
- 防災システム、自然災害および、女性のための小企業支援プログラムがバングラデシュの防災に対して持つ重要性について報告した。自国で洪水被害が多発することから、建設省（現国土交通省）と河川情報センターで日本の洪水防災と河川対策を研究した。

**(6) スリランカ**

- 氏名：Mr. Chulananda Perera
- 派遣時職位：副長官、スリランカ社会福祉省、国立防災センター
- 期間：2000年11月-2001年4月
- 自然災害、防災関連法体系と同国の国立防災センターのような組織について報告した。国内で必要となる防災訓練マニュアルを作成した。

**(7) アルメニア**

- 氏名：Ms. Hripsime Vardanyan
- 派遣時職位：長官秘書、国立アルメニア地震センター（NSSP）
- 期間：2001年3-6月
- スピタク地震および NSSP のような防災組織を含む、アルメニアの災害について報告した。内閣府および兵庫、静岡両県の防災組織を見学し、日本における防災を研究した。

**(8) パプアニューギニア**

- 氏名：Ms. Philomena Miria
- 派遣時職位：教育訓練長官、国立防災機関（NDMO）
- 期間：2001年6-12月
- 高潮とラポール火山の爆発のような同国の自然災害ならびに NDMO のような防災機関について報告した。三陸ほかの各地を見学し、日本の津波対策を研究した。自国の防災訓練マニュアルを作成した。

**(9) カンボジア**

- 氏名：Mr. So Ban Heang
- 派遣時職位：事務局長、防災機関国家会議（NDMO）
- 期間：2001年6-12月
- カンボジアの洪水被害と対策ならびに NCDM の活動について報告した。小谷ダムと木曾三川流域ならびに、NHK と日本赤十字を見学し、日本の洪水防災対策を研究した。

**(10) バングラデシュ**

- 氏名：Mr. Mohamed Atikuzzaman
- 派遣時職位：副長官、バングラデシュ県行政訓練センター（BPATC）
- 期間：2002年1-7月
- バングラデシュの最近のサイクロンと洪水被害ならびに BPATC 訓練について報告した。ADRC と JICA が開催した JICA 防災セミナーに出席した。日本でのあらゆる種類の防災について研究。また、フィジーのトコハ大学でフィジーの災害状況について講義した。

**(11) アルメニア**

- 氏名：Mr. Tigran Sayiyan
- 派遣時職位：主任、南方部対策本部、国家地震保護調査
- 期間：2002年2-8月
- スピタク地震後の耐震構造とその他の地震対策および NSSP の活動について報告した。また、フィジーのトコハ大学でアルメニアの災害状況について講義した。フェニックス・プラザ、およびその他の兵庫県の防災機関を見学し、日本の防災対策を研究した。

**(12) カンボジア**

- 氏名：Mr. Khun Sokha
- 派遣時職位：第一副首相アシスタント、国家防災委員会（NCDM）
- 期間：2002年7-12月
- トンレサップ湖（カンボジア）の水位上昇とメコン川の洪水の状況と対策について報告した。滋賀県を訪れ、琵琶湖を取り巻く森林を含む同湖の治水対策を研究した。カンボジアの防災に関する報告書を作成した。

**(13) インド**

- 氏名：Mr. V. P. Pasrija
- 派遣時職位：副長官、防災部、自治省
- 期間：2002年10-12月
- グジャラート地震の災害とインドの防災システムについて報告した。兵庫県防災センター、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターのような防災施設を積極的に見学し、今後インドで設立する防災センターに役立つ情報を収集した。インドにおける防災に関する報告書を作成した。

**(14) ネパール**

- 氏名：Mr. Dilli Shiwakoti
- 派遣時職位：長官、麻薬防災部、自治省
- 期間：2003年1-6月
- 最近のカトマンズにおける洪水、各地で頻発する地滑りと洪水の近況とネパールの防災プロジェクトについて報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。ネパールの防災に関する報告書を作成した。

**(15) モンゴル**

- 氏名：Mr. Bolormaa Borkhuu
- 派遣時職位：職員、戦略計画管理部、モンゴル自然環境省
- 期間：2003年1-6月
- モンゴルにおける干ばつ、豪雪と森林火災の近況について報告した。また、政府の防災機関と自然環境省について報告した。ADRC ウェブサイトのデータベースの更新を行った。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。モンゴルの防災に関する報告書を作成した。

**(16) ラオス (PDR)**

- 氏名：Mr. Vilayphong Sisomvang
- 派遣時職位：国家防災室訓練部長、社会福祉部、国家防災室、ラオス労働社会福祉省
- 期間：2003年7-12月
- ラオスの鉄砲水と野火の災害状況と防災システムについて報告した。また、フィジーのトコハ大学で災害状況に関する講義を行った。京都大学防災研究所、独立行政法人土木研究所、国交省国土技術政策総合研究所、気象庁、JICA、東京大学生産技術研究所および防災センターのような多くの防災施設を積極的に見学した。ラオスの防災に関する報告書を作成した。

**(17) インドネシア**

- 氏名：Mr. Rachman Sobarna
- 派遣時職位：調査官、火山学・地質学防災理事会、インドネシア・エネルギー鉱物資源省
- 期間：2003年7-9月
- インドネシアの土砂関連災害とモニタリングシステムについて報告した。兵庫県防災センター、阪神・淡路大災害記念人と防災未来センター、京都大学防災研究所、独立行政法人土木研究所、国交省国土技術政策総合研究所のような多数の防災施設を積極的に見学した。

**(18) インド**

- 氏名：Mr. Om Prakash
- 派遣時職位：技官（防災）、インド自治省
- 期間：2003年10-12月
- 1999年のオリッサ巨大サイクロンや2001年のグジャラート時品のような最近の災害状況について報告した。また、フィジーのトコハ大学で災害状況に関する講義を行った。気象庁、JICA、京都市立大学産学連携科学研究所や防災センターのような多数の防災施設を積極的に見学した。インドの防災に関する報告書を更新した。

**(19) タジキスタン**

- 氏名：Mr. Rahmonov Suhrobsho
- 派遣時職位：コンピュータ操作主任専門官、タジキスタン緊急事態民間防衛省
- 期間：2004年1-6月
- サレズ湖の洪水危険や土砂関連災害のようなタジキスタンの災害状況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。タジキスタンの防災に関する報告書を作成した。

**(20) ベトナム**

- 氏名：Mr. Nguyen Thanh Phuong
- 派遣時職位：堤防管理・洪水暴風管理部専門官、ベトナム農業地方開発省
- 期間：2004年1-6月
- 洪水による損害の現況と紅河の洪水対策について報告した。ADRC ウェブサイトのデータベースを更新した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。ベトナムの防災に関する報告書を作成した。

**(21) 中国**

- 氏名：Ms. Yuan Yi
- 派遣時職位：研究官、災害情報部、国立防災センター
- 期間：2004年7-10月
- 中国における災害と防災の現況について報告した。内閣、MLIT、総務省消防庁、兵庫県のような防災関連機関を積極的に見学して日本における全体的な防災について学習した。特に災害情報システムと一般の意識について研究した。

**(22) ラオス (PDR)**

- 氏名：Ms. Bouasy Thammasack i
- 派遣時職位：情報官、国家防災室、R 社会福祉部、労働社会福祉省
- 期間：2004年7-10月
- ラオスにおける洪水と干ばつについて報告した。兵庫県のような災害関連施設を積極的に見学し、日本の全体的防災システムについて学習した。豊岡市の洪水や新潟県の地震の現地調査に参加し、日本の緊急対策を視察した。

**(23) インド**

- 氏名：Mr. Shyam Sunder
- 派遣時職位：上級経済調査官、国家防災局、自治省
- 期間：2004年10-12月
- 1999年のオリッサ巨大サイクロンや2001年のグジャラート地震のような最近の災害状況について報告した。内閣、MLIT、総務省消防庁、兵庫県のような防災機関を積極的に見学し、日本における全体的な防災システムを学習した。また、豊岡市の洪水や新潟県の地震の現地調査に参加し、日本の緊急対策を視察した。

**(24) カンボジア**

- 氏名：Mr. Ross Sovann
- 派遣時職位：防災アドバイザー、国家防災委員会、閣議
- 期間：2005年1-6月
- カンボジアにおける洪水と防災の近況について報告した。特に、JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。カンボジアの防災に関する報告書を作成した。日本における制度的な防災システムについて研究した。

**(25) ネパール**

- 氏名：Mr. Bal Bahadur Malla
- 派遣時職位：職員、防災課、自治省
- 期間：2005年1-6月
- ネパールの地滑りの近況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。ネパールの防災に関する報告書を作成した。日本における制度的な防災システムについて研究した。

**(26) フィリピン**

- 氏名：Ms. Maria Matilde Limpahan Go
- 派遣時職位：V 級地方自治体運営官、地方自治体開発局、内務地方自治体部
- 期間：2005 年 7-12 月
- フィリピンにおける防災システムの近況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。ADRC 加盟国における防災システムの分析的比較を行った。

**(27) タジキスタン**

- 氏名：Ms. Mirova Dilor Mirzovatanovna
- 派遣時職位：主任専門官、大臣室、緊急事態民間防衛省
- 期間：2005 年 7-12 月
- タジキスタンの地滑りの近況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。タジキスタンの防災に関する報告書を作成した。

**(28) アルメニア**

- 氏名：Ms. Lyudmila Harutyunyan
- 派遣時職位：自身局長、国家地震保護調査 (NSSP)
- 期間：2006 年 1-4 月
- アルメニアにおける災害の近況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。アルメニアの防災に関する報告書を作成した。

**(29) スリランカ**

- 氏名：Mr. GMJK Gunawardena
- 派遣時職位：副長官、国立防災センター (NDMC)、災害救援サービス省
- 期間：2006 年 3-6 月
- スリランカにおける災害の近況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。スリランカの防災に関する報告書を作成した。

**(30) 韓国**

- 氏名：Mr. Sang-Hyeok Kang
- 派遣時職位：講師、国立 Samcheok 大学
- 期間：2006 年 7-12 月
- 韓国における水害の近況について報告した。JICA と ADRC が開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。洪水の防災に関する研究を行った。

**(31) モンゴル**

- 氏名：Ms. Shaazan Altanchimeg
- 派遣時職位：上級職員、戦略計画外事、国家防災局(NEMA)
- 期間：2007 年 1-6 月
- モンゴルにおける災害と防災システムについて報告した。その研究は、日本がこの分野で開発した先進的な理論的、実際の知識、特に危険とぜい弱性の評価に関するものを習得することであった。JICA と ADRC が開催した日本の防災慣行の総合的研究のための防災セミナーに参加した。

**(32) タイ**

- 氏名：Mr. Arun Pinta
- 派遣時職位：外事職員、災害予防減災部（DDRM）
- 期間：2007年1-6月
- タイにおける災害と防災システムについて報告した。その研究は、次の2点に関するものであった、すなわち、(1)過去における体の災害、(2)省／県レベルでの地震防災に関するタイと日本の比較研究。JICAとADRCが開催した日本の防災慣行の総合的研究のための防災セミナーに参加した。

**(33) ミャンマー**

- 氏名：Ms. New Yin Aye
- 派遣時職位：訓練研究局主任、救援復興部
- 期間：2007年7-12月
- ミャンマーの防災システムと派遣研究プログラムについて報告した。JICAとADRCが開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。防災、特に洪水とサイクロン対策および日本の災害教育システムの分野における比較研究を行った。

**(34) キルギス共和国**

- 氏名：Mr. Karybai Uulu Kanatbek
- 派遣時職位：主任専門官、外事投資部
- 期間：2007年7-12月
- キルギスからの派遣研究員として研究成果を報告した。JICAとADRCが開催した日本の防災の総合的研究のための防災セミナーに参加した。日本における防災と予防対策、災害緊急対策、災害復興と建設、地震対策とコミュニティーベースの早期警戒システムの比較研究を行った。

**(35) 中華人民共和国**

- 氏名：Ms. Zhang Yunxia
- 派遣時職位：研究員、防災センター
- 期間：2008年1-5月
- 中国における災害と防災システムについて報告した。日本の防災システム及び情報の収集・分析・活用システムを各種セミナーや職場訪問を通して取得・体験することで、中国の現状に改善を加える可能性を研究した。

**(36) パキスタン**

- 氏名：Mr. Taj Zafar Waoar
- 派遣時職位：副局長、ギルギット市役所
- 期間：2008年2-6月
- パキスタンにおける災害と防災システムについて報告した。日本の建築基準法令の運用と管理システムについて研究を行った。JICAセミナーや神戸市役所での講義と情報の収集を通して知識を取得・体験することで、パキスタンの現状に改善を加える可能性を研究した。